単なるブームなんかじゃない。積み重ねた努力の実りなんだ

大野正幸さん
1951年（昭和26年）10月29日生まれ。
㈱大野塗装看板

安田佳正さん
1965年（昭和40年）11月5日生まれ。
旭川市議会議員

星　幸一さん
1954年（昭和29年）2月23日生まれ。
家具製造販売の㈱コサイン代表取締役

――多田さんは、ずっと前から動物園が好きだったんですか

多田　そうですね。最初は本当に動物が好きで動物園が好きで、飼育係さんにすごくあこがれていて、自分がなりたいんじゃなくて、そういう人たちと仲良くなりたいという非常にミーハーな気持ち。（笑）

――子どもの頃から？

多田　好きでした。やっぱり遊具施設になると寄り合われる時期って決まりますから、まずはコーヒーカップに乗って、観覧車に乗って、という感じでしたけど。でも、なんだって一番印象強かったのはドブラですね。小学校1年生の時、「小学一年生」という雑誌に紹介されてたんです。それで幼心に、旭山動物園はすごいなって思った。あそこは雑誌に載るくらい、すごいところなんだと。親から動物園に連れて行ってあげる、ドブラを見たがどうと言われた時は、すごく嬉しかった。

あべ　ドブラの愛称はロースっていうの。

多田　え、あれロースっていう名前なんですか？知らなかった。メスですか、もしかして？

あべ　そうメス。

多田　私ずっとオスだと思ってた。

あべ　あれ、ドブラっていう名前があるから怖そうだけど、親がドンキーとセブラだから。

――オスがロバ、メスがシマウマですよね。交尾が難しいんじゃないか、シマウマの方が大きいじゃない？

あべ　でもそうでもない。大丈夫（笑）。

多田　切り株にのっかって、高さを調整したっていう話を聞いたんですけど（笑）。

あべ　きょうの座談会にふさわしい話題かどうか（笑）。繁殖賞という賞があるんですよ。日本で初めて産まれた動物を育てている方に贈られる賞が、当時、マウテンシマウマの夫婦がいたの。マウテンシマウマは日本のどこでも飼ってなくて、うちにしかいなかった。そのシマウマ舎に、ロバもいっしょでさ、三頭で暮らしてたの。そしたらシマウマのお腹が大きくなってきて「おっ、繁殖賞だ！」って、俺たちはもう嬉しくてね、色めき立ってさ、旭山動物園は、それまで繁殖賞ゼロだったから。生まれた時は、「やった！」ってでも、見ると、ストッキングをはいている（笑）。ありゃー、それで繁殖賞は夢となった。でも、その当時は、そういうことが流行っていたんだ。今ではもう絶対に恥ずかしくて出せないけど（笑）。雑種を作るっていうのは。

――「入場料が安い」って話を聞きます。先日、たまたま居酒屋のカウンターで隣に座った小林亜星夫妻が「なんであんなに安いんだ」って怒ってました。入場料については、どう思いますか？

星　実際に施設を作る費用は、その入場料で十分まかなえているのかなぁ赤字って、あんまいいことじゃない気がするんだけど、赤字だとするなら、僕はもうちょっと高くてもいいのかなって気はしますね。

あべ　私は逆に入場料が高いよね。

安田　そうなんです。調べると、公立で一番高いのは上野動物園の大人四百円。私立になると、高いのは和歌山アドベンチャーで三千五百円。

――見る側からして、旭山の値段はどうなんでしょう？

多田　安いです。

安田　安いと思うけど、大勢の人が入るようになったから値上げっていうのは、ちょっといやらしく感じるだろうし。

あべ　でも、少しずつ上げてるよね。

多田　上がってます。パスポートだって、最初は五百円だった。で、千円になったら高いと言って、買わない人がいたらいです。

安田　あの当時はね。でも今は一回しか行かなくても、やっぱりあべさんが描いた絵が欲しいからって、パスポートを買う人も多い。旭山動物園の場合は、枚数制限じゃないですか。上野は、限定三万枚って決まってるんですよ。入場料は、あの金額でいいと思うんですよ。旭川市の特別会計から、だいたい三億円支出している。その中でやってくれればいいんだろうと思う。平成十七年度の決算は、たぶん持ち出しは三千万円くらいじゃないでしょうか。

あべ　じゃ二億七千万円くらいは稼いでる。黒字になりそうですね。

多田　もっとそれに近い状態なんですか。

あべ　俺がまた飼育係をしてる時は、動物園は博物館や図書館と同じだから、金がかかって赤字でもいいんだ、そのかわり自由に市民が楽しんでくれればいい、公立の施設として、入場料は安くてもいいじゃないか、というお考えだった。でも、私立の動物園や水族館は、どうしてもそこで商売をするから入場料は高い、場内レストランでないと食べちゃいけない。ただね、私立の動物園もどんどん潰れるしね。だから、安いからお客さんが来るっていう訳でもないと思うのよ。

安田　公共の施設、またレクリエーションの場、教育の場として一人でも多くの市民の方に足を運んでもらえるという意味では、妥当な値段なのかな、と思うんです。私が市議会で動物園のことを取り上げ始めた当時、テレビドラマの「白線流し」で、水族館やプラネタリウムをデートの場所にしていた、そういう場所が旭川にも欲しい、というところから始まったでよ。若い人って、車を買って、そのローンやなんかでデートしようと思ってもお金がない。だから、そういう場を行政が提供してやるのも一つかなと。

大野　家族で夏別マリンパークニクスに立ち寄ったことがあります。一人二人いて行くと、二千円っていうのはそれほど気にならないんですよ。でも、家族で行くと、大きいお金になるっていう理由で、行かないようにしてる学校もある。不思議でしょうがない。

あべ　旭川市の子どもたち、市民に、何かサービスを提供する方法を考えた方がいいと思う。

安田　去年も一日たりと、市民感謝デーを設けた、そういう市民サービスはやっぱり必要だと思う。

――旭山の規模で二百万という入場者数は、どう考えても多いと思います。あと何年かすると、人気も落ち着くでしょう。その時をイメージしながら、旭山の完成図・将来像を考えてみたいと思います。

星　うん。遠足価格、市民優待にしてもいいんじゃないかと僕は思う。

あべ　旭川市民の、というか道北圏も含めての旭山動物園なんだよと。今は観光者がすごいよね。ゆっくりと幼稚園の子がバギーサラン見てるし、ツアー客がドンドンやって来て、どんどん流されちゃったりして。僕が飼育係だった当時は、誰もいない時から、アザラシにエサをやる時に、子どもたちに「入ってこーい」ってエサやらせたりしました。今はもうそんな風景は無理だろうね。

安田　今、幼稚園なんか受け入れてないって話聞きましたよ。

あべ　資料では来てるよ。ただ飼育係がガイドしたり、案内なんかはできる状況じゃないね。

――旭川市民は安く、という声もありますね。

星　うん。遠足価格、市民優待にしてもいいんじゃないかと僕は思う。

あべ　旭川市民の、というか道北圏も含めての旭山動物園なんだよと。今は観光者がすごいよね。ゆっくりと幼稚園の子がバギーサラン見てるし、ツアー客がドンドンやって来て、どんどん流されちゃったりして。僕が飼育係だった当時は、誰もいない時から、アザラシにエサをやる時に、子どもたちに「入ってこーい」ってエサやらせたりしました。今はもうそんな風景は無理だろうね。

安田　今、幼稚園なんか受け入れてないって話聞きましたよ。

あべ　資料では来てるよ。ただ飼育係がガイドしたり、案内なんかはできる状況じゃないね。

イメージしながら、旭山の完成図・将来像を考えてみたいと思います。

あべ　今は子宝がこんな付いちゃったけど、僕たちの発想は、お金のない時のものだった。だからお金は無尽蔵に頭の中で使えたんですよ。もし、五百万円あるから何か考えろって言われたら、ヤチブタやつ、ヤギ、羊舎とか、予算ゼロっていいなと思うんですよ。始めから全部のイメージでも描けるとこんな動物舎は、将来も絶対作れないだろうっていうモノでも考えちゃう。べんぎん館だって、十年前に五千万あったからやれ、って言われていたら、変な施設を作ってしまったと思うな。そこで妥協しちゃう。あれを考えたのは二十年近く前なんだけど、その時に建てた動物舎を今見ると、ライオンやトラなどが入っていたりするんですよ。

大野　新しい「もうじゅう館」ができた時のことを思い出します。以前の猛獣館では、本当に感動でした。飼育係の方の頭の中にも、きっとそうだと思います。また、将来入園者も減ったとしても、それは減ったとして事じゃないと。だから今の形で園が存続してくれればと、そんなふうに思います。

安田　王子動物園では、ホッキョクグマにエサをやるもぐもぐタイムみたいな時に、生きた魚をやっていいんだよ、お母さんたちからかいうふうだっていう情報があって中止にしたそうです。旭山動物園では、アオダイショウに生きたネズミを食べさせるところを見せたりするんですよ。それは、へびって食べないといけないという命の重さを教えてくれるんだと思う。

あべ　旭山は飼育係のメッセージがちゃんとあるのね。他の動物園は飼育係の顔がなかなか見えない。メッセージが少なすぎる。

安田　自分なりに一つだけやりたいことがあって、それは遊園地のこと。あの場所では邪魔な人で、例えばスキー場の方に移動してもらって、ということをまず民間の方と話し合っています。民間で遊園地と観覧車を回してもいい。今の遊園地の場所をまず切りかえって、動物の展示スペースとして使えるようにしたい。移設した観覧車は、五時で閉園が終わってから、夜景を楽しむとかね。そういうデートの場所になってもらえればいい。それから、石狩川水系の生き物の展示を完成させて、あとは、象など、サバンナ系統の動物舎を整備してもらえると、それで一段落してもいいかなと思ってるんです。多田さんの動物園クラブには、動物園協会の役目を果たして欲しい。ほかの動物園にはあるが、天下りなどで人件費が結構かかっているんです。

多田　私たちのクラブも動物園と一緒で、ないないづくしから始めましたから。今の状態っていうのは、想像を絶しているんです。おそらく私が一番よくわかっていると思います。

安田　園としては、協会がない分、動物園クラブが園の財布になってもらいたいと思ってる。園で何かやりたいと構想した時に、市の予算の都合でできないものが、昨年いくつかあったんです。園をとる施設は、クラブがお金を出して、欠けているプレハブを建てましたし、多田ヒロミさんがいるからできたんだと思う。

多田　本当に動物園好きなので、どんな施設になっても、そばにいたいなって思います。それが私の旭川市民としての役目かなとも思う。でも一人ではできないから、やっぱり人と人のつながりが大事ですよね。動物園もそうだし、今がんばっている人とのつながりがちゃんとポリシーを持って、伝えていこうと思うんですから、その気持ちを持ち続けたいと思っています。